

## 国内研修報告書

私は大学の春休みという長期休暇を利用して、2月13日から16日の四日間、東北山形県小国町に研修に行ってきた。私は今回初めての国内研修でスケジュールの管理や町役場や施設のアポイントメントなど自分たちで行うということがどれだけ大変であるかということを知ることができた。今回の研修内容はまちづくりについて学ぶというものである。大学生活1年間を通してwell-beingを実現するために、それらを理解するための幅広い知識を習得してきたが、実際に現地に行くことでもっと深く学ぶことができるのではないかと思い、今回の小国町の研修に参加した。特に地域系のレジュメや講義で使ったプリント類を見返して地域おこし協力隊の方のことなど、実際には経験したり、見たりする機会が今までになかったのでより強い意志を持って取り組んでいこうと思った。

研修自体は2日間により行われ、残りの二日間は移動日となっている。

研修1日目の流れとしては、小国町役場に訪問して町内案内、町長面会まちづくりの概要説明を受けるという流れで行った。

### 町内案内

1. 小国町立小国小学校に行った。小国小学校は白い森の国おぐにのコンセプトのもと自然に囲まれた学校であり、学校自体も木材が多々使われており室内、室外どこにいても自然を感じることでできる良い学校だと感じた。小国町の小中学校は少子化が進展する中にあり、教育環境を維持していくためにそれぞれ一校に統合になったと聞いた。小学校や中学校が遠くなってしまった学生を配慮してバスによって登下校に困らないようにしていると聞いた。そして冬に東北ならではの雪の対策として、服や靴、衣類などを乾かす専用の部屋などを設けており、学生にもものすごく優しいものだと感じた。

そして中学校は小学校の隣にあり、子供同士の交流や、地域交流などをためと聞いた。一緒になって学習したり、学校内では学べないことや得られないことを学ぶことができ、すごいメリットだと感じた。

2. 小国町病院。小国町病院では内科、外科、産婦人科、眼科、歯科、小児科などさまざまな診療科目があった。小国町では少子化だけでなく高齢化も進んでおり、介護老人保健施設だけでは受け付けられない分も病院が受け付けていると聞いた。ここまで高齢化が進んでいると従業員や施設のことなどさまざまな問題、課題があると感じた。

3. 総合センター。昔ながらの施設ではあったが、少子高齢化が進む中で急な段階のつくりや、老朽化が気になる。建て替えるにも予算の問題などがあり、少しでも町のすべての人々が利用しやすい施設にしないといけないと感じた。

これだけ町を案内してもらっただけでも昔とは変わったところもあれば、課題によりまだ

変えることができていないところに分かれてしまっているのだと思った。

町長の面会では案内で行ったところの今後の課題や小国町の良さなどを聞くことができた。そのあとはまちづくりの概要説明を受けました。山形県小国町は面積のほとんどが森林だという。実際に見てみると雪で美しい白銀の世界だった。人口は昭和30年約2万を最高に以降は減少傾向にあるという。総人口は8000人満たず、その中でも子供の数は11%、老年人口は36%にもなるそうだ。山形県では4位になる高齢化率である。減少していき空き家や高齢化問題などが挙げられる。

山村産業の創出。町内には3つの重点整備地域を設定されており、それぞれ地域がもつ特性生かした産業を創出していると聞いた。具体的には、国民宿舎の建設、イワナの養殖場の整備、観光わらび園の整備などだ。それにより町民の所得が向上し県内町村1位になったそうだ。観光わらび園は全国初だそう。

小国町は自然と調和された活力のある町であり、「雪」と「雨」は人々を支え環境を潤す資源となっている。そして自然環境と歴史、文化が育んだ小国の人々の人間性がある。行ったところすべてのところで小国の人々はみんな優しく、初対面の人への対応ではなかった。小国町のまちづくりの新展開は町全体を自然と人間の共存の在り方を体験的に保養的に学習できる多彩な生活空間として形成していこうとすると聞いた。

ブナ文化。森と人とのかかわりによって育まれてきた独特の生活文化だ。今回はその文化に触れることはなかったが、いろいろな樹種の性質を巧みに使った木地づくりやつる細工をやるそうだ。

そして現在第4次にわたり総合計画基本構想が成された。地域資源やつながり、豊かさを交流などによって「協働人口」を増やす。時代は都市から地方へということで、私自身も上京してきた身としては地元をもっと盛り上げていきたいと思う気持ちなので研修や大学の講義、実習などを通して知識を取り入れていきたいという気持ちがより強くなった。

2日目。二日目はまず地域食文化体験をした。他大学との交流もあり経験としてはとても良かった。正直日本には自分の知らない食べ物がたくさんあると感じた。一緒に作ってくださった地域の人々もいい人たちばかりだった。

次は地域おこし協力隊の方と面会した。大学の講義では聞いたことはあったが、緑のふるさと協力隊は聞いたことがなく、NPO法人が展開していて、都市部に住んでいる若者を1年間農山漁村に派遣するものだと聞いた。一方地域おこし協力隊は総務省の制度であり、地域づくりに従事していくもの。

地域おこし協力隊の方の活動内容は地域の人と話したり、交流したり小さな娯楽大会を開いたりとしているようだ。いつも温かい人たちに囲まれて幸せだと言っていた。地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊について興味深く思った。どんな街にどんなことをしに行っているのかなど調べてみようと思う。

今回は初めての研修だったが、思うこと感じることもたくさんある研修になった。人口減少や少子高齢化などの問題、交通手段の問題などがあるなかでも小国の町は魅力に溢れる街

だと思った。地域おこし協力隊や町役場の力による宣伝の力を今のインターネット社会でうまく生かすことでもっと環境客や協働人口が増えるのではないかとおもった。都市に出ていく若者が戻ってきたいと思うまちにするためには、と思うのはどこの町も一緒なのだと感じた。今回は短い期間で多くの魅力ある資源があるなと感じた。食べ物であったり、自然であったり、人であったりした。初めてで一緒に行った研修メンバー、地域の人々にはすごく助けられた研修となった。

まだやりたいことや将来のことなど明確になっていない人は研修や現場に行くことで少しは何か発見できるのではないかと感じた。私自身は将来が明確になった研修になったといってもいい。地元を盛り上げるには、とかいろいろなことを考えたりするよりも現地に行くともまた違った視点もあり、経験を積み重ねる大事なことだと思った。

小国で知り合った人、他大学の交流や一緒に行ったメンバーとのつながりをこれからも大切にしていきたい。